令和２年度事業報告

１．文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演会等で行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、個人・グループを問わず積極的に申請して文化財に関する研究活動を進め学会に寄与している。

科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の３０％が科学研究費間接経費として機関に措置される。

令和２年度科学研究費は、継続課題として科学研究費補助金によるものが２件、学術研究助成基金助成金によるものが３件、新規に採択された課題は科学研究費補助金によるものが１件、学術研究助成基金助成金による課題４件であった。

なお、学術研究助成基金助成金が研究期間全体の合計額で採択されるため、単年度の研究費は明記していない。

（１）継続研究課題

＜補助金＞

基盤研究（Ｂ）一般

「出土木製品マイクロ波加熱凍結乾燥処理法の実用化研究」

平成２９年度～令和２年度　川本耕三　　13,700 千円（研究期間合計額）

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

平成２９年度～令和３年度　雨森久晃　　11,600 千円（研究期間合計額）

＜基金＞

基盤研究（Ｃ）一般

「石造物からみた中世寺院の求心性と情報発信力に関する基礎的研究」

令和元年度～３年度　　佐藤亜聖　　3,900 千円（研究期間合計額）

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」

令和元年度～４年度　　服部光真　　2,470 千円（研究期間合計額）

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」

令和元年度～３年度　　坂本　俊　　3,770 千円（研究期間合計額）

（２）新規研究課題

＜補助金＞

基盤研究（Ａ）一般

「出土金属製文化財の保存処理に使用された樹脂の寿命予測について」

令和２年度～５年度　　植田直見　　35,800 千円（研究期間合計額）

＜基金＞

基盤研究（Ｃ）一般

「古代中世東アジアにおける服装の伝播と地域性に関する研究
－髪型と装身具を中心に－」

令和２年度～４年度　　木沢直子　　4,290 千円（研究期間合計額）

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和２年度～５年度　　三宅徹誠　　2,470 千円（研究期間合計額）

「天然素材から合成素材へ‐現代歴史資料の保存に関する研究」

令和２年度～４年度　　金山正子　　3,640 千円（研究期間合計額）

若手研究

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」

令和２年度～４年度　　金澤　馨　　4,030 千円（研究期間合計額）

２．文化財の調査・整理事業

文化財調査研究グループ

人文学分野

総本山長谷寺（桜井市）	文化財等保存調査事業
松原市（大阪府）	市内文化財総合調査業務委託
華厳宗元興寺（奈良市）	所蔵石造物資料の総合調査
真言宗十輪院（奈良市）	南都十輪院歴史資料総合調査および寺史編さん事業
香川県	札所寺院の史跡指定に係る屋島寺文化財詳細調査
愛媛県	札所の文化財詳細調査業務
真言律宗元興寺（奈良市）	創建千三百年記念出版に係る書籍制作業務
高槻市（大阪府）	高槻市立しろあと歴史館古文書史料目録作成業務

寺院を対象とする継続的な総合調査事業として、長谷寺の文化財等保存調査事業では、古文書・古記録、聖教類、染織品、工芸品などについての調査・整理を実施した。松原市の融通念佛宗来迎寺の総合調査では、古文書、聖教、版木の３ヶ年にわたる調査成果をまとめ、報告書を編集して松原市教育委員会から刊行した。

華厳宗元興寺の総合調査は、石造物について実施し、報告書を刊行した。当事業については公益財団法人大和文化財保存会から助成を受けた。

十輪院の寺史編さん事業では、所蔵文化財の総合調査を経て、報告書を刊行した。

四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物、石造物、絵画、工芸、彫刻、古文書・古記録、聖教等を対象とするものである。香川県では屋島寺の調査を実施した。愛媛県では大寶寺、浄瑠璃寺、八坂寺、西林寺、繁多寺の調査を実施し、大寶寺、浄瑠璃寺と八坂寺は調査を完了した。それぞれ報告書刊行のための文化財目録・報告文を提出した。なお、平成２５年度から調査を行った志度寺及び平成２７年度に調査を行った大窪寺の報告書が香川県から刊行され、平成３０年度から調査を行った浄瑠璃寺、浄土寺の報告書が愛媛県から刊行されている。

元興寺創建千三百年を記念して刊行する書籍は、講演集編「日本仏教はじまりの寺 元興寺―１３００年の歴史を語る―」・図録編「図説 元興寺の歴史と文化財―１３００年の法灯と信仰―」と題した２冊の編集・制作を行い、吉川弘文館から刊行された。

その他、古文書目録作成・翻刻、拓本採取など、古文書や石造物の資料化のための基礎的な調査、作業を行った。

考古学分野

大和ハウス工業（株）	平城京左京三条六坊十二坪・奈良町遺跡発掘調査整理報告書作成業務
高野町教育委員会（和歌山県）	史跡金剛峯寺旧境内（奥院地区）大名墓総合調査業務に係る委託業務
清水建設（株）	平城京左京四条六坊八坪・奈良町遺跡発掘調査業務
清水建設（株）	平城京左京四条六坊八坪・奈良町遺跡発掘調査整理報告業務
本壽寺（京都市）	本壽寺境内発掘調査整理報告業務
アパホーム（株）	平城京左京三条六坊十二坪・三条大路、奈良町遺跡（上三条町）発掘調査整理報告書作成業務
野村不動産（株）	平城京跡（左京四条四坊九坪）発掘調査業務
和歌山県立博物館	災害記念碑拓本採取業務
米山寺（広島県三原市）	小早川家墓所石塔実測調査業務
三都住建（株）	菅原遺跡発掘調査整理報告書作成業務
小山（株）	平城京左京五条五坊十一坪発掘調査整理報告書作成業務
松原市教育委員会（大阪府）	立部遺跡出土遺物科学分析業務委託

発掘調査は７件行った。奈良市内においては開発行為を原因とする平城京跡を対象とした５件、京外の菅原遺跡で１件の発掘調査を行った。このうち４件は令和３年度に、残る２件については令和４年度に発掘調査報告書を刊行する予定である。なお、平城京左京四条六坊八坪・奈良町遺跡発掘調査業務は調査と報告を別契約で行っている。

京都市本壽寺では納骨堂の解体修理に合わせて発掘調査を行い、令和２年度に報告書の原稿を作成した。解体修理の報告書に併せて刊行される予定である。

整理報告業務では、令和元年度に調査支援を行った（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団の和歌山城跡発掘調査の遺物及び遺構の整理、報告原稿の作成を行い、令和２年度末に（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団より報告書が刊行された。

石造物関係の調査は３件受託している。高野山奥之院基礎資料整理業務は、国指定史跡高野山奥之院の保護活用のために令和元年度にインデックスとしての悉皆調査報告書を刊行したが、今後銘文編を含めた悉皆調査報告書を刊行すべく、詳細調査を継続している。米山寺は小早川家墓地石塔の実測調査、和歌山県立博物館は津波災害記念碑の調査である。

これ以外に、松原市立部遺跡出土の蔵骨器のＣＴ画像の編集業務を行った。

記録資料分野

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）　所蔵資料の状態調査

平成１８年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は、１５年目の業務を完了した。歴博内ではルーティンな館内業務として位置づけられ、資料係管轄の調査委託事業となっている。歴博館内にて現地調査員１名が常駐し、当所研究員の指導と歴博資料係員の協力体制のもと、「秋田・青森・岩手の仕事着及びこぎん・ひしざし模様見本」「戦時期織物業関係資料」「醤油醸造関係資料」の３つのコレクションの状態調査（悉皆調査）を実施した。

令和２年度は、年度当初より新型コロナウィルス感染拡大のため千葉県下にも緊急事態宣言が発令され、歴博側との調整を経て現地調査員に１カ月以上わたり在宅勤務を指示するなど、所内としては特例的な措置を講じる必要が生じた。その間も情報管理のセキュリティをはじめ在宅業務の手配を整え、調査作業は滞りなく実施できた。

埋蔵文化財保存研究グループ

金属製品・土器担当

堺市博物館（大阪府堺市）　大塚山古墳基礎整理等業務

令和２年度より、堺市博物館が所有する百舌鳥大塚山古墳出土遺物について、遺物の種類、数量、状態を把握し、今後の保存・復元・活用に向けた基礎整理を行った。事業は３年継続を予定している。

保存科学研究グループ

（公財）大阪府文化財センター　大阪府立近つ飛鳥博物館（太子町）所蔵大修羅の保存状態調査

平成９年度以来近つ飛鳥博物館の展示室内で大修羅の寸法計測や状態調査を継続している。部分的な補填材の経年劣化等はみられるものの概ね良好な状態である。

東京都立江戸東京博物館

巡回展「発掘された日本列島２０２０」展の最初の会場である江戸東京博物館での展示作業において、展示会場の空気質調査を行った。最初の会場では新作間もない造作物による展示空間の空気汚染の危険性が考えられるため、展示作業とともに空気質調査を行い、問題が発生していないかの確認を行った。

奈良市補助金事業　仏教民俗資料の収集調査

奈良市内における主要石造物の詳細調査を実施し、『研究報告』に逐次掲載する形で公表を行ってきた。令和２年度は、奈良市南風呂町の十念寺境内に所在する五輪塔１基の実測調査及び拓本採集を行った。忍性銘の五輪塔として知られてきた資料であるが、今回の調査の結果、忍性銘が追刻であることが確認された。

なお、この成果は令和３年度に刊行する『研究報告２０２１』に掲載する予定となっている。

３．文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）	国宝荒神谷遺跡出土青銅製品に係る分析
奈良国立博物館	五條猫塚古墳出土金銅龍文帯金具の分析
東松島市（宮城県）	矢本横穴墓群出土革帯の分析
愛知芸術文化センター（名古屋市）	木村貞三コレクション金工品の分析

出土資料では、荒神谷遺跡出土銅剣の本格処理に際し、応急処理時に含浸されたアクリル樹脂の劣化について、熱分解ガスクロマトグラフ質量分析法、核磁気共鳴法等による詳細な調査を行った。五條猫塚古墳出土帯金具については、コンピュータ断層撮影、走査型電子顕微鏡、光学顕微鏡による観察、蛍光Ｘ線分析、繊維分析による材質の推定を行った。また、矢本横穴墓群出土革帯では革帯の残りが良く、革帯から抽出したコラーゲンを用いてアミノ酸配列分析を行った。

伝世資料では、愛知県美術館所蔵木村貞三コレクションのうち金工品６点の蛍光Ｘ線分析を行い、金及び銀が併用された象嵌部の元素マップを得た。

４．文化財の保存修復事業

文化財調査研究グループ

記録資料分野

十日町市古文書整理ボランティア（新潟県）	屏風包紙の保存処理および反古文書翻刻
文教大学（埼玉県）	青蓮寺所蔵「実伝」の修復
名古屋大学	河川絵図の修復
河内長野市（大阪府）	古文書、引き札の修復
有限会社おりべ（京都市）	書籍帙の修復およびブックケース作製
南方熊楠顕彰会（田辺市）	南方熊楠関係資料の修復

新潟県中越地震に係る補助金交付対象である十日町市古文書整理ボランティア（団体）から依頼された「屏風包紙」には、江戸後期の越後縮に関する帳簿類や江戸幕府に献上された御召縮雛形包紙などの反古文書が使用されており、保存処理中の解体作業後に全丁撮影を行い、その翻刻作業や実測図作成等も行った。依頼された２点のうち１点は国立民族学博物館特別展「復興を支える地域の文化」（令和３年３月４日～）にて展示された。

古文書・絵図類の修復は漉嵌法（すきばめほう）を中心に進めており、文教大学からは昨年度に引き続き、奈良県宇陀市の青蓮寺に所蔵されている中将姫伝承に係る手稿本「実伝」の修復を依頼され、所蔵寺の同意のもと実施した。名古屋大学の河川絵図も漉嵌法で修復を実施した。また、河内長野市所蔵の郷土資料の引札等の修復は継続的に実施している。

有限会社おりべには図案参照のための書籍類が多数所蔵されており、水損等により傷んだ帙の修復と、ブックケース（中性紙外箱）を作製した。

南方熊楠顕彰会は南方熊楠顕彰館の設立前より資料調査等で係わってきたが、同館資料の中で劣化が顕著になってきた洋紙資料の修復に着手した。

伝世資料分野

能登町（石川県）	重要有形民俗文化財「能登内浦のドブネ」保存修復業務
大山寺（鳥取県大山町）	重要文化財「鉄製厨子」の保存修復
陸前高田市（岩手県）	被災国登録有形民俗文化財等修理業務
愛知県芸術文化センター	木村定三コレクションに係る保存修復処置委託業務
岩国市（山口県）	交流センター天井画修復事前調査業務

能登町ではドブネ２・３及び船具類を現地のドブネ収蔵庫内において、２隻の船大工作業、及び形状の維持・強化等後半の保存修復作業を行い無事完了した。併せてドブネ収蔵庫建設からドブネ保存修復、船具の保存処理を網羅した『重要有形民俗文化財能登内浦のドブネ保存修理報告書』の刊行に携わり無事発刊を迎えた

鳥取県大山町に所在する大山寺所蔵重要文化財「鉄製厨子」の保存修復を令和元年度から事業延長となったため令和２年度１１月に無事作業を終え、返却を完了した。

陸前高田市は、令和元年度に引き続き令和２年度も、東日本大震災による被災資料陸前高田市立博物館所蔵の国登録漁撈用具及び収蔵資料について修理を行った。

愛知県美術館所蔵の木村定三コレクションの中から金象嵌轡鐶等金属製品７点について保存修復を行い完了した。

岩国市交流センターは羅漢高原にあり、その多目的ホールの天井には横尾忠則氏の制作による天井画「赤の螺旋」が描かれている。横尾忠則氏の天井画は珍しく例を見ないことから貴重な作品と位置付けられる。

本事業では経年の劣化によるカビの発生が確認されたため、高さ１０ｍを超える天井画の劣化調査のため足場を組み、白色付着物の除去方法の検討、画面に発生している白色付着物を採取・培養を行った。これらを基に修復計画を策定する予定である。

埋蔵文化財保存研究グループ

出土木製品分野

福井県立若狭歴史博物館（小浜市）　重要文化財鳥浜貝塚出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）　重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
徳島県　重要文化財観音寺・敷地遺跡出土品の保存修理
福島県三島町（福島県）　重要文化財荒屋敷遺跡出土品の保存修理
西宮市（兵庫県）　高畑町遺跡出土品の保存処理
能登町（石川県）　真脇遺跡出土品の保存処理
新潟市　茶院Ａ遺跡出土木製品（漆塗り弓）の保存処理
えびの市（宮崎県）　島内地下式横穴墓群第１３９号墓出土漆製品（弓漆）の保存処理

重要文化財の修理としては、福井県若狭町鳥浜貝塚（縄文時代）、福山市草戸千軒町遺跡（鎌倉～室町時代）、徳島県徳島市観音寺・敷地遺跡（飛鳥～平安時代）、福島県三島町荒屋敷遺跡（縄文時代）の出土品について保存修理や保管台の作製を行った。

他に兵庫県西宮市高畑町遺跡（弥生～室町時代）、石川県能登町真脇遺跡（縄文時代前期～晩期）の出土品、新潟市茶院Ａ遺跡（奈良時代）の漆塗り弓や、宮崎県えびの市島内地下式横穴墓群第１３９号墓（古墳時代中期末～後期前葉）出土漆製品（弓漆）の保存処理を行った。

金属製品分野

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）　国宝荒神谷遺跡出土品の保存修理
宗像大社（福岡県宗像市）　国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品の保存修理
福岡県行橋市（福岡県）　重要文化財稲童古墳群出土品の保存修理
広島県立歴史博物館(福山市)　重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
茨城県（茨城県立歴史館・明治大学保管）　重要文化財三昧塚古墳出土品の保存修理
うきは市(福岡県)　重要文化財月岡古墳出土金銅装脛当形鉄製品の保存修理
えびの市(宮崎県)　重要文化財島内地下式横穴墓群出土品の保存処理
壱岐市(長崎県)　重要文化財原の辻遺跡・双六古墳出土遺物の保存修理
東京国立博物館　東京国立博物館における列品の保存修理
京都国立博物館　京都府原山古墳出土頸甲の保存修理
奈良国立博物館　五條猫塚古墳出土帯金具の保存修理

国宝島根県荒神谷遺跡（弥生時代）出土品の保存修理は、第１期（平成２２～２８年度)、第２期（平成２９年度～令和２年度）と出土品全点の再修理を行ってきたが、令和２年度はその最終年度であった。１１年間に亘り実施してきた本事業は、令和２年度修理対象の銅剣３７点の修理終了をもって全て完了した。

宗像大社所蔵・国宝沖ノ島祭祀遺跡（古墳時代から奈良時代）出土品の保存修理は、第１期（平成３０年度～令和２年度）の最終年度であった。修理および保管台・箱の作製を行い第１期は完了した。

重要文化財では、福岡県・稲童古墳群（古墳時代）出土品の保存修理、広島県・草戸千軒町遺跡（鎌倉時代から室町時代）出土品の保存修理、茨城県・三昧塚古墳（古墳時代）出土品の保存修理、うきは市・月岡古墳出土品の脛当形鉄製品の保存修理、壱岐市・原の辻遺跡出土遺物の保存修理などを実施した。

土器分野

常陸大宮市（茨城県）	重要文化財泉坂下遺跡出土品保存修理
徳島県	重要文化財矢野遺跡出土品保存修理
三島町（福島県）	重要文化財荒屋敷遺跡出土品保存修理
茨城県（茨城県立歴史館・明治大学保管）	重要文化財三昧塚古墳出土品の保存修理
学校法人関西大学（大阪府吹田市）	重要美術品長門和同開珎鋳銭司の鋳型の保存修理

国の指定文化財の修理としては、茨城県泉坂下遺跡（弥生時代中期）出土土器５点、徳島県矢野遺跡（縄文時代後期）出土土器２点、福島県荒屋敷遺跡（縄文時代晩期）出土土器など５点の保存修理を行った。また、令和元年度から引き続いて茨城県三昧塚古墳（古墳時代中期）出土埴輪の保存修理を行った。

平成３０年度から継続して行ってきた関西大学所蔵の長門和同開珎鋳銭司（奈良時代）の鋳型の保存修理は、令和２年度をもって終了した。

他に、広島県安芸高田市明官地廃寺跡（奈良時代）出土の三彩火舎の保存修理を行った。

文化財企画活用室

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）	国宝荒神谷遺跡出土品の桐保管台作成
宗像大社（福岡県）	国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品の保管台
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品の保管台
行橋市（福岡県）	重要文化財福岡県稲童古墳群出土品の保管台
朝来市（兵庫県）	重要文化財茶すり山古墳出土品の保管箱
うきは市（福岡県）	重要文化財月岡古墳出土金銅装脛当形鉄製品の保存台
福井県立若狭歴史博物館（小浜市）	重要文化財鳥浜貝塚出土品の保存台
宮内庁正倉院事務所	正倉院宝物（甘竹簫）三次元計測
（公財）滋賀県文化財保護協会	高野遺跡出土鏡の図面、保管台・箱作成
京都国立博物館	京都府原山古墳出土短甲・頸甲の保存台
高松市（香川県）	相作馬塚古墳出土甲冑の保存台
志布志市（鹿児島県）	原田３号地下式横穴墓出土短甲の保存台

各部門での保存処理事業における保存台・保存箱の作製について、仕様・図面の作成、保存台の作製等について各部門と連携を取り合い実施した。

三次元計測として、宮内庁正倉院事務所より委託を受けて保管台作成のための正倉院宝物（甘竹簫）を三次元計測、また滋賀県高野遺跡出土鏡の三次元計測を行い、三次元データを基に図面、保管台の作成を行った。

５．研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

展覧会の開催

春季企画展

『元興寺地蔵会奉納行燈絵展－須田剋太画伯奉納行燈絵を中心に』（仮）

※宗教法人元興寺と共催

開催期間　４月２５日(土)～５月１０日(日)

開催場所　元興寺法輪館

開催予定であったが、新型コロナウィルス感染防止の観点から中止した。

秋季特別展

『もの・わざ・おもい-復元模造の世界-』　※宗教法人元興寺と共催

開催期間　１０月２４日(土)～１１月１５日(日)

開催場所　元興寺法輪館　入館者総数　6,687 人

元興寺文化財研究所では文化財全般の調査・保存・修復を５０年以上手掛けてきた。その仕事は文化財を後世に残し伝えることだが、文化財をそのままの形で残すには限界がある。

そこで、変化しやすい色やカタチを残し伝えるために、いち早く新しいデジタル技術を使って、レプリカ（複製品）を製作してきた。

また、既に壊れてしまっている文化財の本来のすがたや、優れた古(いにしえ)の製作技法あきらかにし、後世に伝えていくために、積極的に復元模造も行ってきた。この事業では、正倉院宝物の精巧な再現模造の手法に倣って、関西近郊の伝統工芸士の匠の技と最新の科学的調査や研究成果の融合により、単なる模造ではなく、将来の指定文化財に値する高い品質を有する復元模造品を目指して製作してきた。

今回の特別展では、考古遺物から絵画や民具にいたる文化財について様々な手法で製作したレプリカ（複製品）や復元模造品を、一堂に集めて展示した。

特に、その模造品は、色やカタチだけでなく、できるだけ本来の製作技法で再現し、作り手のおもいをもこめて製作してきた。ここでは復元模造の世界を通じて、文化財を残し伝えるということの意義を問い直してみたいと思い展示を行った。

会期中には研究員による講演会と記念講演・ミニシンポジウムを開催した。

講演会

講演：「文化財を残し伝える－保存修復と復元模造－」塚本敏夫

講演：「絵画文化財をよみとく－模写のちから－」　韓（はん）　希延（ひじょん）

日時：１０月３１日（土）１３時３０分～１５時３０分

場所：元興寺 国宝禅室　　参加者：約５０名

記念講演・ミニシンポジウム

講演：「文化財における模写の意味と活用」仲　政明（嵯峨美術大学教授）

講演：「正倉院の再現模造」西川明彦（宮内庁正倉院事務所長）

ミニシンポジウム 『いにしえのわざに挑む』

塚本敏夫、韓　希延、仲　政明、西川明彦

日時：１１月８日（日）１３時３０分～１６時３０分

会場：元興寺文化財研究所 総合文化財センター

参加者：約５０名

文化講座の開催

実践文化財学　講座編「保存科学から歴史を読むⅡ」

元興寺文化財研究所が創立以来半世紀にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所研究員がわかりやすく報告する下記内容の講座の準備を進めていたが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から令和２年度は中止した。

第１回	５月１３日	「古代の金属器生産技術に迫る」	塚本敏夫
第２回	６月１０日	「文化財の自然科学的観察」	山口繁生
第３回	７月　８日	「民具研究と科学分析」	桃井宏和
第４回	９月　９日	「記録としての写真」	大久保治
第５回	１０月１４日	「大型資料を後世に残すには －大型民俗資料･美術工芸品の保存修復－」	雨森久晃
第６回	１１月１１日	「古代の組紐技法－解析と復元－」	小村眞理
第７回	１２月　９日	「絵図修復の世界」	金山正子

場所　　総合文化財センター　ルーパ館３階

時間　　１３；３０～１５：００

展覧会等の開催支援

展覧会等の開催支援

『発掘された日本列島２０２０』展

文化庁と各開催館等が主催する「発掘された日本列島」展について、出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、ポスター・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプション作成のほか、関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたる業務を、平成２０年度から受託している。

令和２年度は「新発見考古速報」、特集１「日本の自然が育んだ多様な地域文化」、特集２「我がまちが誇る史跡・名勝・天然記念物」の三部で構成され、令和元年度までの「新発見考古速報」を中核とする内容から、ストーリー性を持たせた特集１を中心とする方針に転換された。

その特集１「日本の自然が育んだ多様な地域文化」では、旧石器から古墳時代までの４３遺跡から約４６０点の資料が出陳され、新発見考古速報の７遺跡、約２００点と合わせて、計約６６０点の資料を展示した。

特集２では、記念物を指定する制度（「史蹟名勝天然紀念物保存法」大正８(1919)年に制定）ができて１００年を迎えることを機会として令和元年度より行われている「記念物１００年」事業の一環として、記念物の内容や保護・保存の様々な取り組みを紹介し、史跡のうち代表的なものについては資料の出陳も行われた。

開館日数は延べ１６８日で、入館者数は４２，５８８人であった。

令和２年度　開催館、開催期間(開館日数)および入館者数

東京都江戸東京博物館（墨田区）	６月１３日～	８月　３日(46 日)	21,302 人
新潟県立歴史博物館（長岡市）	８月２２日～	９月２７日(32 日)	5,830 人
福島県立博物館（会津若松市）	１０月１０日～	１１月１５日(32 日)	6,156 人
一宮市博物館（愛知県）	１１月２８日～	１２月２７日(26 日)	3,389 人
中津市歴史博物館（大分県）	１月１６日～	２月２１日(32 日)	5,911 人

※江戸東京博物館に関しては、新型コロナウィルス感染症の影響で、当初予定より開催期間が２週間短縮された。

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内環境の管理と、法輪館の展示管理業務等を行った。

６．報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告２０２０』(1,300 冊)

（公益財団法人荏原 畠山記念文化財団助成事業）

研究員が科学研究費等による研究活動や仕事を通じて得た新しい所見や発見について報告を行う年報として、公益財団法人荏原 畠山記念文化財団の助成金を受け刊行している。

『平城京右京一条二坊十一坪（HJG８次）－令和元年度発掘調査報告書－』

令和元年に発掘調査を行った奈良市平城京右京一条二坊十一坪の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『平城京左京三条六坊十一坪（HJG９次）－令和元年度発掘調査報告書－』

令和元年に発掘調査を行った奈良市平城京左京三条六坊十一坪の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『華厳宗元興寺所蔵石造物資料調査報告書』

令和２年度に実施した華厳宗元興寺所蔵の石造物の調査の成果及び前年度刊行した古文書の補遺報告をまとめ、報告書を刊行した。

『南都十輪院所蔵文化財総合調査報告書』

平成２７年度から令和２年度にかけて実施した建造物、石造物、彫刻、絵画、工芸品、古文書・古記録、聖教、位牌染織品等の調査成果をまとめ、報告書を刊行した。

『図説　元興寺の歴史と文化財―１３００年の法灯と信仰―』

元興寺創建１３００年の軌跡を、豊富な図版と最新の研究成果に基づいて解説した書籍を刊行した。

『日本仏教はじまりの寺 元興寺―１３００年の歴史を語る―』

元興寺創建１３００年記念事業として開催されたシンポジウム、講演会を講演集としてまとめ刊行した。

７．体験活動等

研究、調査成果を還元し、文化財保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として実施している。

ＪＲ東海エージェンシーやまとみちの会

ＪＲ東海エージェンシーやまとみちの会会員特別イベントとして『文化財保護のとりで・「元文研」―南都仏教の高僧を偲ぶ旅―』と題したツアーを開催した。研究所で実施している文化財保護の取り組みについて総合文化財センターの作業見学をとおして理解いただき、さらに研究員が調査研究を行った寺院での文化財を眺めながら解説を行った。（参加者１３６名）

博物館実習の受け入れ

奈良大学（１３名）、近畿大学（４名）、京都女子大学（５名）の計２２名を受け入れた。

施設見学会

総合文化財センター開所以来、定期的に一般個人向けの施設見学会を募集・開催してきたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のため中止した。

その他

大谷大学（５０人）、大阪大谷大学（１８人）、京都府立大学（１５人）、京都橘大学（３１人）、奈良市ボランティアガイド（２８人）の計５団体（１４２人）の見学を受け入れた。